

## 園長のひとりごと

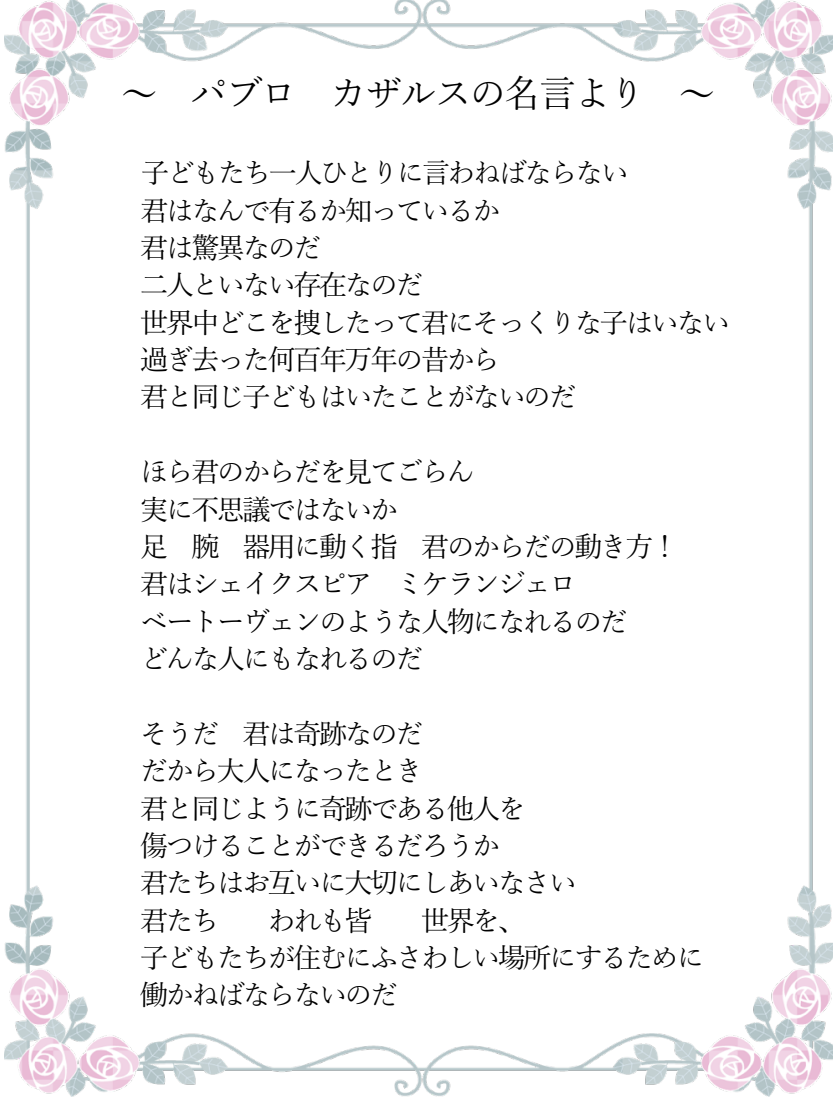
～ 子育ては心から心へ～

爽やかな季節になり、子どもたちの高らかな声がより一層響くようになりました。  
新しいクラスにも少しずつ馴れてきて、ご家庭でもお友だちのお名前が聞かれる様になっているかと思えます。

最近、クラスの中では例えば先生から人の体のしくみを習ったり、一緒に考えたりしています。  
そのような日々の活動の中でお互いの尊い存在を感覚的に捉えていって欲しいと思っております。

ここで私の尊敬する世界的なチェリストの名言をご紹介します。

パブロ・カザルス（1876～1973 スペイン/カタルーニャ地方の人）は  
指揮者 教育家 平和主義者でありました。



### ～ パブロ カザルスの名言より ～

子どもたち一人ひとりに言わねばならない  
君はなんで有るか知っているか  
君は驚異なのだ  
二人といない存在なのだ  
世界中どこを捜したって君にそっくりな子はいない  
過ぎ去った何百年万年の昔から  
君と同じ子どもはいたことがないのだ

ほら君のからだを見てごらん  
実に不思議ではないか  
足 腕 器用に動く指 君のからだの動き方！  
君はシェイクスピア ミケランジェロ  
ベートーヴェンのような人物になれるのだ  
どんな人にもなるのだ

そうだ 君は奇跡なのだ  
だから大人になったとき  
君と同じように奇跡である他人を  
傷つけることができるだろうか  
君たちはお互いに大切にしあいなさい  
君たち われも皆 世界を、  
子どもたちが住むにふさわしい場所にするために  
働かねばならないのだ

子どもが理解できるようになったら、カザルスの言葉を教えて下さい。

そして、目が見える事 話せる事 体の事など、全てがいかに尊いかという事を  
親として話して聞かせてください。

長い人生、親子で「幸せに」になるために…。

2024年6月

園長 杉田 雅美